

H22_①「公園緑地の新たな指標の検討」に関する調査

調査項目①「公園緑地の新たな指標の検討」に関する調査

調査年次 平成 22 年度

目的

地球環境時代を迎え、低炭素都市づくりや生物多様性の確保が求められる中で、そのベースとなる緑量を把握するための指標の重要性も高まっている。こうした緑量を代表する指標としては「緑被率」があるが、把握する緑の対象や算出方法が都市によって異なっており、都市間の比較や共通の目標としては使うことができない状況にある。

こうした状況を受けて、国においても緑被率の把握方法の検討が進められているところであるが、衛星画像解析による誤差を含んだマクロ的な利用に即するデータ整備が有力であり、既に緑被率が整備されている都市での取り扱いや、大都市での政策課題にどう生かしていくかが未知数である。また、低炭素都市づくりの観点からいえば緑被の中でも高木緑被がどの程度あるのか、生物多様性の観点では緑被の固まりの大きさや連続性・樹林地の場合の林床の豊かさなど、緑量だけではなく緑の質の面までが問われてきており、こうした緑の質の面をどう指標として把握・設定していくのかも課題である。

このため、本調査では、これまでの公園緑地に関する指標について、大都市各都市での状況と各指標の課題を整理するとともに、緑被率をはじめとした緑の量に関する指標についての大都市でのあり方と共有の可能性について検討する。

概要

これまで提示されている公園緑地に関する指標の課題、問題点の抽出に基づき、大都市で求められる指標のあり方を検討し、「各都市の把握要望」「指標としての使い勝手」「施策推進の指標としての活用しやすさ」「大都市共通の指標としての活用のしやすさ」「市民へのわかりやすさ」などの観点から整理し、一覧表にとりまとめた。

結果

■ 公園緑地においてこれまで用いられてきた指標

全国レベルの計画で活用されている指標と、検討会参加都市で活用されている指標から、行政側が緑の施策に関連して求めているデータとして重視する項目を整理した。

■ 新たな指標の検討方針

大都市で求められる指標のあり方整理するとともに新たな指標の考え方として 5 つの項目で整理することとした。

■ 新たな指標案

新たな指標の考え方で整理した下記項目ごとに指標案を検討した。

- ◆ 緑の量を測る指標
- ◆ 公園緑地の整備状況を測る指標
- ◆ 緑の質を測る指標
- ◆ 公園緑地における新たな施策展開状況を測る指標
- ◆ 緑の整備状況を測る指標との相関によってアウトカムの的に測る指標

■ 考えられる新たな指標の総括

新たな指標案を一覧表にとりまとめた。

調査結果の反映等

キーワード **指標 緑被率 整備量 環境機能 防砂機能 景観機能 レクリエーション機能**
アウトカム指標

事例公園等